



02

トニー・ウーの
パプアニューギニア

エソの口内と沢山のするどい歯を見ることができるのは、クリーニングされているときだけだ

Photo & Tet : **Tony Wu**
Design : PanariDesign

Independent State of Papua New Guinea
Web-lue 2008. Winter

 **Information Link**  関連情報HPへ
<http://www.png-japan.co.jp/index.html>



手付かずの自然が残る、パプアニューギニアの海中は、美しくカラフルで巨大なウミウチワがいたるところに群生している

今まで会った人たちの殆どが共通して僕に聞く質問がある。それは、「どこのダイビングスポットがお気に入りですか?」。意外とこの質問に答えるのは難しい。

「どの海も好きだよ」は、答えになっていないらしい。「撮りたい被写体によって行く海が違うんだよ」と言っても納得してくれる人は少ない。

世界各地で潜っていると、千差万別の生き物や水中シーンが見られる。浅瀬で目を凝らしていると、ひょこっと何かが動く。目で追ってみるとペアであったり、面白い行動をしてたりする。僕流ダイビングスタイルはあまり動かないで、じっと腰をすえて撮影する。呆れてボートに上がってしまうダイバーがいても、長時間の潜水で体温を奪われてしまっても、

面白い生き物がそこにいれば時間を気にせず、エアが続く限り撮影に集中する。水に溶けてしまうのではないと思う程、海の中が大好きだ。

質問は答えない限り続く。「強いて言うなら、どこが好きですか?」。

場所の名前が欲しいのだ。僕は、毎回潜っても楽しめる場所、「パプアニューギニア」をあげる。そして、決まって次の質問を投げかけてくる。「何故?」

パプアは、46万平方キロメートルの広大な土地に、人口はたったの600万人以下しかいない。ここは、まだ手つかずの海や大陸が残っている。

僕が毎回潜っても楽しめる場所、パプアニューギニア



いくつかのダイブサイトでは、ホワイトチップシャークが、まるで好奇心旺盛な子犬のように接近してきてくれることもある



滑稽な表情を見せる、大きなエソは、スターウォーズのキャラクター“ジャバ・ザ・ハット”を連想させる



ポートモレスビーのロロアダイブリゾート近くのポイントで見つけたオレンジ色のポロカサゴ。ポロカサゴは、どの海でもレアな生物だが、ここでは結構簡単に見つけることができる



- 01: パプアニューギニアの多くのダイブサイトでは、サンゴの大群生と、その上に群れる魚たちで覆いつくされて、視界が失われてしまうことも多い
02: 普通、水温の低いエリアに生息していることが多いオビゴン（オオセ）だが、
パプアニューギニアでは、暖かい海でありながら、結構簡単にこの魚を見ることができる
03: 巨大なカスリハタは縄張りを持っている魚だ。撮影のために、彼の穴に接近すると、この巨大なハタは私をチェックするように近づいてきた
04: 私はマクロ撮影が好きだが、パプアニューギニアの海中景観は、美しく、破壊されていない手付かずの自然が残っているために、
ワイド撮影にも夢中になってしまった



パプアニューギニアの海は、驚きに満ちている。このカムリブダイの巨大な群れに囲まれたのは、朝6時30分にエントリーした早朝ダイブでのこと。しかも1時間以上もこの群れに囲まれていた。こんな体験が一度でもあればすごいことなのに、この2日後に同じ経験をまたしてしまった私がどれほど興奮したかは想像がつくだろう



01



02



03

01:かわいらしいイチモンジコバンハゼは、お化粧しているみたいに見える
02:どこでも見れるタテジマヘビギンゴがでえ、超クローズアップで観察すると面白い。特に口を大きく開いた瞬間はかわいらしい
03:私はこのレイドシュリンゴゴビートの撮影に3時間もかけるほど熱中し、ファインダーを覗き続けた。
お陰で、私のすぐ近くの砂地にジュゴンの親子が身体を休めて、ハゼを撮影する私を観察していることにまったく気づかなかった



ハナゴイは、海の中でもっとも美しくカラフルな魚の中の一つだと私は思う

Independent State of Papua New Guinea

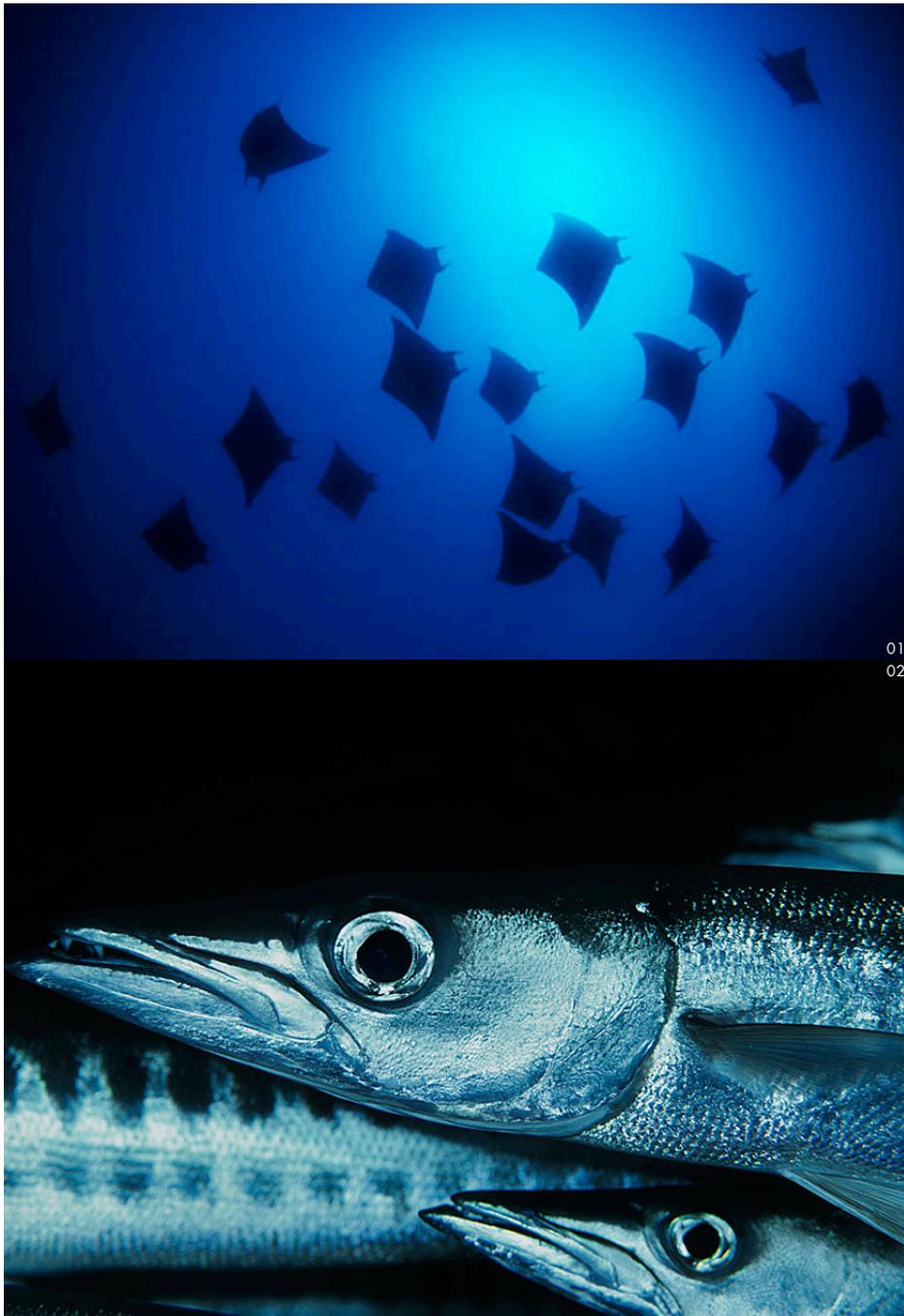
©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

トニー・ウーの
パプアニューギニア
Web-lue 2008. Winter

 **Information Link**  関連情報HPへ
<http://www.png-japan.co.jp/index.html>



- 01:じっくりと観察すれば、魚の口内のエラまで見えることもある
 02:3匹の大きなエソが一列に並んで、まるでグループ写真でポーズを取ってるみたいに見える
 03:アンボンクリノイドシュリンプは、擬装の名人。住んでいる宿主と同じ体色になり、見分けるのが難しい
 04:このネジリンボウは、妊娠しているようだ 05:私は、魚たちが口を開けている瞬間を撮影するのが、好きだ
 06:よくこのこのメスのコマチコシオリエビを観察すると、卵を抱えているのがわかるはずだ
 07:バブアニューギニアのコマチコシオリエビは、今までに私が他の海で見た、どの同種の固体よりも大きくて太っている
 08:浅い海中でも、このトウアカクマノミのファミリーのように、見るものは沢山ある。



01
02



03



04

- 01:このモブラの大量にもう一度会いたがために、PNGを何度も訪れている
- 02:この小さなバラクーダたちのように、多くの魚たちに超接近できるのも魅力
- 03:フリンディーブランドンリゾートのバー
- 04:PNGでは、このような小さなカヌーが、重要な交通手段として今も多くのエリアで使われている

多彩な海、 パプアニューギニアの秘密

パプアが位置するロケーションや環境には秘密がある。

本島の回りは、ビスマーク海、ソロモン海、珊瑚海の3つの海に囲まれている。この3つの海流を受けることによって、海水は栄養を含み、魚群が自然に多く集まって来る。また、アジアとオーストラリア大陸の間に位置することで、隣国と似た安定した温暖な気候が、陸や海問わず、独特な生き物が集まる密度の濃い地域をもたらしている。

実際のところ、パプアに来る観光客やダイバーは比較的に少ない。手つかずの海には、私達の知らない生き物が沢山生息している。大物から小物まで勢揃いするこの魅力ある海は、誰に邪魔されることなく至福の時間を体験出来ると思う。

例えば、先日NHKの番組取材の為、1ヶ月半パプアを訪れた。番組では放映されなかったが、滞在中、3つも新種を(チョウチョウ魚、ウミウシ、貝)発見した。これからも、自ら開拓して行きたいと考えている。

最後に、僕は、基本的にどの海も好きだが、半端じゃない魚の濃さ、透明度抜群の海、別世界が広がる海中の美しさ、ダイナミックな大物狙いのハードダイビングから静かな湾内でのマクロ狙いのダイビングまで、幅広く楽しめる場所として、パプアニューギニアは上位に入ると思う。

さあ、未開拓のマリンワールドを、自分自信で確かめてはどうだろうか？



Profile
トニー・ウー



現在日本在住の水中カメラマン。'01年に写真集「Silent Symphony」を出版し、「フランスアンチーブ水中映像祭」でグランプリを受賞。写真を通じて、貴重な海の生き物の保護活動をし、世界のダイビング雑誌や新聞に作品を発表している。
<http://www.tonywublog.com>